

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 勝山市立成器西小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注 1</sup>

☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注 2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫 \_\_\_\_\_）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0802

福井県勝山市昭和町 1 丁目 6 - 8 1

E-mail nisisyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website http://seikinisisyo.mitelog.jp/

幼児児童生徒数 男子 87 名 女子 90 名 合計 177 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「かしこく やさしく たくましく」を学校理念として、ESD をコミュニケーション活動の中核と捉え、ESD の実践を通して発信する力の育成を目標とした。

具体的には、自主・共生・自律を柱に、①地域学習、②福祉・ボランティアに係わる学習、③食育に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

#### ① 地域学習

勝山の伝統文化である「左義長祭り」に学校全体で取り組んだ。1、2 年生は短冊、3 年生は作り物、4 年生は行灯、5 年生は習字を飾り、祭りを盛り上げた。6 年生による左義長太鼓のステージ発表に始まり、全校で左義長太鼓をたたいた。

3 年生は、「恐竜博物館」「ゆめおーれ勝山」などの施設や本町周辺の地域遺産などについて調査し、分かったことをまとめ、12 月の学習発表会で、2 年生や保護者に向けて発信した。

## ②福祉・ボランティアに係わる学習

4年生は福祉・ボランティアとはどのようなものかについて調べた後、次のような活動に取り組んだ。

学校周辺や公園の清掃、ベルマーク・資源回収、老人介護施設訪問、お年寄りとの交流、シニア体験、手話体験、点字体験、体に障害のある方との交流会、除雪など。

これら内容をまとめて、12月の学習発表会で、3年生や保護者に向けて発信した。

## ③食育に係わる学習

5年生は、「地域・食育」をテーマに、地域の特産品を調べた。その中でも、米、えごま油、若猪野メロン、雪室の野菜の4つにスポットを当てて、見学や体験学習などをした。

米では田植え体験、成長観察、稲刈り体験などをした。えごま油では工場見学をした。若猪野メロンは農家見学をした。雪室は見学、体験をした。いずれも事前調査や事後のまとめを行った。12月の学習発表会で4年生と保護者に向けて発信した。

## ④国際理解に係わる学習

6年生は、5年生までに調査してきた地域学習の成果を国際理解と結びつけた。まずは勝山のいいところを見つめ直し、その中で「平泉寺」と「恐竜博物館」についてさらに深く調査活動を行った。5年生までに学習していた「左義長」や「ゆめおーれ」「恐竜博物館」なども加えて、勝山PRパンフレットを作成し、京都に修学旅行に行った際に、京都市内を訪れている外国人観光客に英語でインタビューをし、勝山の魅力を紹介した。その際に、自分たちが作成したパンフレットを渡した。その様子を、12月の学習発表会で、5年生や保護者に向けて発信した。



① の写真（「ゆめおーれ勝山」見学）



② の写真（老人施設訪問）



③ の写真（メロン農家見学）



④ の写真（平泉寺見学）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□16.ジェンダー平等	□ 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

勝山市 HP、勝山市観光協会サイト  
自作プリントを使用

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

全学年が ESD カレンダーを作成し、総合的な学習の時間を中心に、各教科において、「人とのつながり」「自然とのつながり」「文化とのつながり」に関連する単元を明記し、ESD を意識した学習となるように工夫している。発信する機会として、１２月に学習発表会を設定し、保護者及び一つ下の学年に発表する独自のスタイルをとっている。発表する時間と聞く時間がちょうど半分ずつで集中して取り組むことができ、発表形態もポスターセッションや劇などさまざまに工夫することができる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

必要な情報は、データとして学校のサーバー内で管理している。各学年担任が、ESD カレンダー、総合的な学習年間計画を参照し、関連する情報を引き出して使用している。また、学級担任同士の情報交換も密に行っている。借り上げバスは使用に制限があるため、前年度の内に見学計画を立てるようにしている。外部人材も適切に活用できるよう、教頭を窓口とし、連携をとって行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

外部評価（児童）では、「授業では、意見を言ったり発表したりしている」「授業では、調べたり考えたりすることが多い」と思う児童の割合が増えている。外部評価（保護者）では、「学校は、楽しく分かりやすい授業づくりに努めている」と思う保護者の割合が増えている。内部評価では「年間計画に基づいて活動ができた」「各学年に応じた資質・能力を身につけさせることができた」「児童の興味・関心を引き出す手立てが工夫できた」で、全職員が「できた」または「ほぼできた」と答えている。このまま、活動を継続していくと良いと考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

発信する機会として、１２月に学習発表会を設定し、保護者及び一つ下の学年に発表する独自のスタイルをとっている。発表する時間と聞く時間がちょうど半分ずつで集中して取り組むことができ、発表形態もポスターセッションや劇などさまざまに工夫することができる。参観された全保護者に発表後の感想を記入いただいたところ、ESD の学習が進んでいることを大変肯定的に捉える意見が多数あった。保護者も生活を見つめ直したり考えを深めたりするよい機会になったようだ。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

福井大学教職大学院が行っているラウンドテーブル「実践し省察するコミュニティ」に毎年参加するようにしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

市で数名がユネスコスクール全国大会に参加した。その成果を参加できなかった学校（本校含む）にもレポート等で報告していただいている。勝山市は全小学校がユネスコスクールに加盟しているので、市の研修等で情報共有・情報交換をしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

児童も教員も保護者も、ふるさとを大切に思う気持ちが育ってきているように感じる。さまざまな出来事を関連づけて考えられるようになってきている。効果的なまとめ方・発表の仕方についても、そのスキルが学年を追うごとに向上している。学校で行っている特色ある活動について、保護者からは肯定的な意見を多数いただいている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

当校は次年度も、「かしこく やさしく たくましく」を学校理念として、ESD をコミュニケーション活動の中核と捉え、ESD の実践を通して発信する力の育成を目標としていく。具体的には、自主・共生・自律を柱に、①地域学習、②福祉・ボランティアに係わる学習、③食育に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行う。ESD カレンダーや総合的な学習計画はほぼ今年度と同じように考えている。早い時期に、ESD について教員間で共通理解を深めておくといよい。国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成が深まってくるといよいように思われる。新たな外部人材の積極活用も考えていきたい。